

ピタウ先生の活動

## 山谷のホスピス「きぼうのいえ」訪問

ピタウ先生(元理事長・元学長)は、お元気に10月20日に82歳を迎えられました。昨年秋に読売新聞の「時代の証言者」で連載され、今年春に「愛ある生き方」(海竜社1,500円)と冊子「時代の証言者」を出され大変好評です。本の印税と売上げの一部は、上智大学100周年募金に寄付されています。

日常的には、時々の上智学院やソフィア会行事へ参加され、月一回の「ピタウ先生が語る会」、ご病人のお見舞いや黙想会のご指導などをされ、SJハウスにお住まいです。



今年、山谷にあるホスピス「きぼうのいえ」の新聞記事をお読みしたら、即、「祝福と病人の見舞いに行きましょう」と仰って6月と9月に訪問いたしました。「きぼうのいえ」は、卒

業生の山本雅基さん(95  
神神)が8年前に設立した  
ホームレスや身寄りのない  
病人を看取るホスピスで  
す。上智コミュニティーカ  
レッジで出会った奥様の美  
恵子さんと苦勞を共にしな



がら、多くのボランティアや宗教家に支えられて育ててきたNPO活動で、この8年間に120人ほどの方を看取っています。山本さんは山谷の街そのものを希望の街に、日本のマザーテレサの街コルカタにしたいという夢をもっています。「きぼうのいえ」の話を「ピタウ先生が語る会」で紹介され、参加者とソフィア会有志からのご寄付も集まり、チャリティーの輪が広がっています。話題になった千葉茂樹監督の「マザーテレサを生きる」や山田洋二映画「おとうと」は、「きぼうのいえ」がそのモデルになっています。(詳細は、「山谷でホスピスやっています」(山本雅基著・実業之日本社)、「大いなる看取り—山野のホスピスで生きる人びと」(中村智志著・新潮社)、<http://www.kibounoie.info/>)

撮影:フォトグラファー 安田榮津紀(10総教)

故郷イタリア・サルディニア島のヴィラチドロに「ピタウ大司教博物館(仮称)」を開設準備中です。